

# 令和3年度 第2回 大田区自転車活用推進委員会について

## 概要

【日時】 令和4年1月20日（木） 14:00～16:00

【会場】 六郷地域力推進センター 5階 六郷集会室  
※WEB形式によるハイブリッド形式で開催

【報告】 ①計画策定スケジュール・前回の振り返り  
②先行施策の実施について  
③パブリックコメント・区民説明会の実施について

【議事】 ①自転車等総合計画について  
②前期アクションプランについて  
③答申について



六郷地域力推進センター会場

## 委員会の主な意見

報告	
1	はねぴよん健康アプリは、自転車をカウントできる機能がない。例えば、自転車での走行距離を入力すると歩数に換算されるようになるなどの対応ができないか。
2	電動キックボードのシェアリングも増えており、将来的には自転車のポートと隣接するケースが増えてくると考えているが、自転車活用とは明確に分けて考えていくべき。大田区と関連するマークを入れるなど、利用者が識別できるようにしてはどうか。 →今後の法改正の動向や大田区交通政策基本計画での位置付けを踏まえながら、自転車の施策についても検討していく。
3	パブリックコメントの意見で、自転車レーンに路上駐車ができないようにポールを立ててほしいという意見があるが、自転車レーンと一般の自動車が行く車線の間にはラバーポールを置いて、ソフト分離をするという方法で、駐車空間を常時ふさいでしまうという問題を解決しようとしているところもある。現状は緊急車両等の走行を妨げる恐れがあるから中々できないという感じではなくなっている。
議事	
1	「たのしむ」の施策体系の中にあるイラストで「災害時の移動手段としても使える」という記載があるが、それについては今まであまり議論してこなかったし、災害といっても色々な種類があるので、少し丁寧な扱い方をした方がいいのではないかと。 →国の自転車活用推進計画でも災害時のことについての記載があるため、今後考えていく必要があるという意味も込めて記載していた。現時点で具体的なアクションが何かあるというわけではない。
2	この総合計画は、区職員にとってバイブルとなるものでもあるため、道路交通法や東京都の条例も掲載してはどうか。
3	この長期の計画の中では、ネットワークや連携がすごく重要である。スポーツ健康フェスタ等の民間スポーツクラブが関わっているイベントも活用してネットワークをつくってほしい。また、スポーツ教室を行っている学校施設に自転車が停められないことが理由でスポーツ教室に通うのを断念してしまったというケースもあるし、今後部活の人数が減ってきて隣の学校と一緒に活動するために自転車移動をするという可能性もある中では、教育委員会や学校との連携も視野に入れて自転車活用を考えるべき。
4	災害時の自転車活用については、先日の大きな地震で電車が止まったときにシェアサイクルが帰宅用に使われたという話もあるので、帰宅困難者対策として、ポート配置をどうするかといった具体的な検討ができるのではないかと。
5	自転車ネットワーク整備実施計画について、総合計画では最終的な路線図のみが掲載されているが、可能であれば、路線選定の七つの考え方が具体的に見えるようにした方がいいのではないかと。
6	アクションプランの「まもる」の施策の中で、主な関係機関として、保育園、小学校、中学校等が記載されているが、町会でも色々な対策の内容をチェックし、把握している。 →「まもる」の施策については、幅広い世代で年代に合わせてという中で、地域の方も含めて一緒に考えて進めていきたい。
7	自転車安全利用五則で「子どもはヘルメットを着用」となっているが、高齢者や中高生の交通事故の問題も考えると、全年齢へのヘルメット着用を推進しているということを注釈で記載できないか。
8	アクションプランに自転車ネットワーク整備実施計画の抜粋があるが、「整備形態フロー」が古いものとなっている。「既設の自転車歩行者道を活用」という言葉があり、ミスリードにつながるため、削除するか、変わっている旨のコメントを入れる必要がある。
9	時間的制約がある中で、交通ルールを学ぶ場に行きにくい状況を打破するために、特典をどのように考えていくかが課題である。
10	多くの方はルールを分かっているが、守れていないので、歩道を通行するよりも車道を走ったほうが早く行けるし便利だし、危険じゃないという状態をつくれれば、自然と流れていくと思う。ルールを教えればみんな、守ってくれるってということではない。
11	目標像の「お出かけしたくなるまち」という表記は、お客様の感覚がする。区民の目線で一人称的に考えると「楽しく出かけたいまち」という表現の方がいいのではないかと。